

関係機関各位

平成28年 9月21日
富良野市長 能登 芳昭
ふらのまちづくり株式会社
代表取締役社長 西本 伸顕

富良野市中心市街地の地価が上昇に転じる ～2016年の基準地価が北海道より公表～

北海道が9月20日に発表した2016年の道内各都市の基準地価で、富良野市内の中心市街地地区(商業地)において、ネーブルタウンの基準地価(幸町7-28)が43,500円となり、対前年比約6.1%上昇いたしました。富良野市ではバブル経済崩壊後、長期間にわたって地価の下落傾向が続いていましたが、2008年より実施してまいりました中心市街地活性化基本計画に基づく各種事業が効果を現し、2014年から3年連続での地価上昇(上昇前2013年比較で13.5%上昇、38,300円→43,500円)となりました。

■継続した官民協働のまちづくりの成果として

富良野市では平成20年11月に富良野市中心市街地活性化基本計画(計画期間:平成20年11月～平成26年10月まで)が内閣府の認定を受け、この計画に基づく第1期事業として、富良野協会病院跡地約2,000坪に食をテーマとするにぎわい滞留空間「フラノマルシェ」を開設。

また、平成26年11月には新たな富良野市中心市街地活性化基本計画(計画期間:平成26年11月～平成32年3月)が内閣府の認定を受け、中心市街地活性化に向けた継続した取り組みを実施し、昨年6月には第2期事業として「フラノマルシェ」に隣接する北側約1.8haの土地に、本市2件目の事例となる市街地再開発事業(個人施行)の手法を導入し、

- ① 既存商店のリニューアル再配置と「フラノマルシェ2」の開設による新たな商業施設の集積。
- ② まちなか居住促進のためのマンションの設置。
- ③ 市立認可保育所、クリニックや高齢者福祉施設の開設。

など、「歩いて暮らせる街づくり」を目標に、新たな生活街として「東4条街区地区市街地再開発事業(ネーブルタウン)」が誕生しました。

これら二つの事業は互いに結びつくことで相乗効果を発揮し、「フラノマルシェ」及び「フラノマルシェ2」の入場者数は平成27年度118万1千人と、開業時(平成22年度)の55万5千人から6年目にして100万人の大台を超え、これに伴い中活基本計画の数値目標の一つである歩行者通行量が平成26年度の2,645人から昨年度は3,873人と飛躍的増加を果たしました。このことにより、まちなかの賑わい感も大きく向上し、本年2月に実施した「中心市街地活性化に関する市民アンケート調査」においても、実に46%の市民が中心市街地の賑わいを感じていると回答しています。

これらの事業は、公益的ディベロッパーである「ふらのまちづくり株式会社」が事業主体となり中心市街地の再編を主導、行政は計画支援・補助金等の側面的支援を行うことで、それぞれが相互補完し合う官民一体となった協働のまちづくりを実践しています。

今回の3年連続した基準地価上昇は、中活基本計画に基づく事業展開が、波及効果として本市中心市街地の不動産価値上昇に寄与し、中心市街地の価値向上と共に、商店街の資産価値向上がまちなかの賑わい(活性化)に繋がっていく連鎖的効果が発生してきているものと考えております。

今後も引き続き、本市中心市街地の地価推移を注視しつつ、中活基本計画に基づく事業展開を着実に推進して参ります。



【本件に関するお問い合わせ】

- 富良野市経済部長 原 正明
TEL: 0167-39-2321 Fax: 0167-23-2123
- ふらのまちづくり(株)
統括マネージャー 岩本 力
TEL: 0167-23-5177 Fax: 0167-56-9000